

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I A (AB101)			担当教員	安部直樹・嶋内麻佐子		
展開方法	演習(遠隔)	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、茶道の芸術文化を理解する力を養う。また薄茶点前(前半)の流れを理解し、道具の扱い方を学ぶ。それらを通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。</p>							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	学んでいる流派の特徴を理解し、道具の名称や正しい扱い方を説明することができる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題レポート	30%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	茶道の基礎である「薄茶点前(お茶を点てお客様に出すところまで)」の流れを理解することができる。				随時試験	65%	
出席							受験要件
合計							100%
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>随時試験の成績を65%とし、茶道における客作法および薄茶点前(前半)の流れを理解しているかなどから評価する。課題レポートについては30%とし、毎回の授業内容をポートフォリオを用いて整理し、習熟度の向上に繋げる。小テストは5%とし、第3回目と第10回目にポートフォリオを使って実施する。課題レポートの回答や小テストについては、正解例を提示しフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>茶道の基本である礼法から入り、茶室での作法、道具の名称・扱い方、薄茶点前(前半)を学ぶ。点前については、薄茶を点ててお客様に出すところまでを理解することを目標とする。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 70～76頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流点前入門編』長崎国際大学G P関連事業(2014年) 指定図書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶道具を準備する。遅刻・欠席をしない。 ・学内外で人と会った時、自分から進んで「あいさつ」が出来るようにする。 ・事前学習として、前回授業で稽古した点前の内容を確認しておくこと。 							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	・オリエンテーション ・茶道文化の概要	茶道文化の考え方、茶道鎮信流の概要を理解する。	茶道文化の授業内容について確認する。
2	・礼法① ・礼法②	茶室の出入りの作法を学ぶ。 鎮信流の礼法（双手礼・爪甲礼）を用いての、席入りの仕方を習得する。	鎮信流の礼法（双手礼・爪甲礼）を習得する。
3	・客作法① ・客作法② ・小テスト	客作法の基本となる菓子の取り方、頂き方を身につける。	客作法（席入り・菓子の頂き方・茶の飲み方）を予習・復習する。
4	・道具の紹介 ・点出しの仕方 ・礼法③	鎮信流使用の茶道具名称と使い方を紹介する。 お茶の点て方を身につける。 茶室内での立ち居振る舞い（立ち方、座り方など）を学ぶ。	道具の名称、茶室内での立ち居振る舞いについて復習する。
5	・割稽古① ・復習（点出し・客作法） ・水屋仕事①	服紗の扱い（たたみ方・身につけ方・さばき方）を学ぶ。 お茶の点て方、客作法について復習する。 道具の扱い方・水屋仕事（茶碗の洗い方）について紹介する。	服紗の扱いについて、身近にある代用品を用いて復習する。
6	・割稽古①復習 ・割稽古②③ ・復習（点出し・客作法） ・水屋仕事②	服紗の扱いについて復習する。 棗・茶杓の清め方を学ぶ。 お茶の点て方、客作法について復習する。 水屋仕事（抹茶・茶杓の片付け方）について紹介する。	服紗の扱い、棗清め、茶杓清めについて、身近にある代用品を用いて復習する。
7	・割稽古①②③復習 ・割稽古④⑤ ・襖の開け方・柄杓の扱い ・道具の紹介	棗・茶杓の清め方を復習する。 ふくだめ茶巾の折り方を、茶碗の拭き方を学ぶ。 席入りの際の、襖の開け方について学ぶ。 柄杓の扱い方について学ぶ。 鎮信流使用の茶道具名称と使い方を紹介する。	服紗の扱い、棗清め、茶杓清め、茶巾の扱いについて、身近にある代用品を用いて復習する。
8	・割稽古④⑤復習 ・割稽古⑥⑦ ・水屋仕事③ ・薄茶前半の紹介（DVD）	ふくだめ茶巾の折り方を復習する。 茶筌の扱いと茶筌通しの意味を理解する。 水屋仕事（釜の扱い）について紹介する。	茶筌通し、茶碗の拭き方について、身近にある代用品を用いて復習する。
9	・薄茶点前（前半）① ・ふくだめ茶巾復習	道具を扱う時の姿勢や、道具を置き合わせる位置が重要であることを理解する。 水指を持ち運び、柄杓引きまでの流れを理解する。	教科書 pp. 70～73 を読み、予習・復習をする。
10	・薄茶点前（前半）② ・茶杓清め復習 ・小テスト	棗や茶杓を清め、釜の蓋を開けるところまでの流れを理解する。	教科書 pp. 70～74 を読み、予習・復習をする。
11	・薄茶点前（前半）③ ・茶筌通し、茶碗を拭く復習	茶筌通しを行い、茶碗を拭くところまでの流れを理解する。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
12	・薄茶点前（前半）④ ・茶巾さばきの復習	茶を点てて、客に茶を出す位置を理解する。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
13	・薄茶点前（前半）稽古① ・道具名などポイントの復習	薄茶点前（前半）の復習	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
14	・薄茶点前（前半）稽古② ・鎮信流のお菓子の取り方（復習） ・鎮信流のお茶の飲み方（復習）	薄茶点前（前半）の復習	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
15	随時試験	薄茶点前（前半）の流れ、鎮信流のお菓子の取り方、お茶の飲み方がどこまで理解されているかを確認する。	教科書 pp. 70～76 を復習し、薄茶点前（前半）の理解を目指す。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化 I A (2020 年度秋季入学生) (AB101)			担当教員	安部直樹・嶋内麻佐子 ・※柳井駿平・※龍美穂子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	1 年・前(秋)期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本学の特色ある教養教育「茶道文化」に触れ、日本の文化を理解する力を養う。また薄茶点前（前半）の修得を通して、もてなしについて考える力を培い、日常生活に必要な礼儀作法やグループの中での日本語を用いたコミュニケーション能力を高めることを目的とする。</p>							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技（準備・片付け含む）に取り組む中で、7～8 名のグループの間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技の基礎である「薄茶点前（お茶を点ててお客様に出すところまで）」を実践できる。				実技確認	70%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>実技確認の成績を 70% とし、評価する。授業態度については 30% とし、稽古への積極性を評価する。実技確認は点前の流れがスムーズにできているか、道具を正しく扱っているか、薄茶点前（前半）の流儀の形を理解しているかなどから評価する。実技確認の結果については学生と個別に振り返りの時間を設けてフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>7～8 名のグループに分かれて、グループワークを通して薄茶点前前半の流れを学び、お茶を点ててお客様に出すところまでの点前を完成させることを目標とする。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400 円の諸経費が必要である。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所（2011 年） 参考書：長崎国際大学人間社会学部国際観光学科編『観光の地平』学文社 指定図書：黒田 宗光著『茶道の稽古場 役立つ 100 の知恵』淡交社（2014 年）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いには自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・茶に関する内容（道具・菓子・露地・茶会）などに関心を持つこと。 ・1 人で点前の稽古が出来るよう、事前・事後の学習を行うこと。 							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・ 茶道文化の概要 ・ 礼法①	茶道文化の概要を理解する。 双手礼・爪甲礼を修得する。	講義概要(シラバス)を確認する。
2	・ 礼法②	水屋の使い方、道具の扱い方について学ぶ。	教科書 p. 36 を読み、予習・復習をする。
3	・ 薄茶点前見本 ・ 割稽古① (服紗扱い、棗・茶杓清め)	薄茶点前(前半)の見本を確認し、概要を理解する。 服紗の扱い(たたみ方・身につけ方・さばき方)、棗・茶杓の清め方を学ぶ。	教科書 pp. 53～57 を読み、予習・復習をする。
4	・ 割稽古② (仕込み茶碗)	仕込み茶碗、茶巾さばきについて学ぶ。	教科書 pp. 59～61 を読み、予習・復習をする。
5	・ 割稽古③ (柄杓引きまで)	道具を扱う時の姿勢や、道具を置き合わせる位置が重要であることを理解する。 柄杓の扱い方について学ぶ。	教科書 pp. 70～71 を読み、予習・復習をする。
6	・ 割稽古④ (釜の蓋を開けるまで)	棗や茶杓を清め、釜の蓋を開けるところまでの流れを理解する。	教科書 pp. 71～73 を読み、予習・復習をする。
7	・ 割稽古⑤ (茶碗を拭くまで)	茶碗の拭き方(茶巾の扱い)を学ぶ。	教科書 pp. 73～74 を読み、予習・復習をする。
8	・ 割稽古⑥ (茶を点てる、客点前)	茶を点てて、客に茶を出す位置を確認する。 客点前を学ぶ。	教科書 pp. 74～76 を読み、予習・復習をする。
9	・ 薄茶点前(前半)稽古①	薄茶点前(前半)の復習。	教科書 pp. 70～76 を読み、予習・復習をする。
10	・ 薄茶点前(前半)稽古②	薄茶点前(前半)の復習。	薄茶点前(前半)の自主的な稽古をし、点前の流れを整理する。
11	・ 薄茶点前(前半)稽古③	薄茶点前(前半)の復習。	薄茶点前(前半)の自主的な稽古をし、点前の正しい型を身につける。
12	・ 薄茶点前(前半)稽古④	薄茶点前(前半)の復習。	薄茶点前(前半)の完成を目指し、自主的な稽古をする。
13	・ 点前確認	薄茶点前(前半)がどこまで理解されているか、確認する。	薄茶点前(前半)の完成を目指す。
14	・ 初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来、松浦家の風習について理解を深める。	日本の正月について調べておく。
15	・ 松芳忌 ・ 点前振り返り	学校法人九州文化学園の創設者である安部松芳先生の遺徳をしのび、献茶式を実施する。 点前確認の振り返りを行う。	教科書 pp. 7～12 を読み、予習・復習する。